

川崎地区交通安全大会

主催 神奈川県教育委員会
神奈川県立高等学校等交通安全教育推進協議会
神奈川県立高等学校PTA連合会川崎地区協議会
協賛 (一財) 神奈川県立高等学校安全振興会
後援 神奈川県立学校長会

日時 平成30年11月21日(水) 13:20~16:10

場所 エポックなかはら

参加者 高校生 191名 保護者 219名 来賓等 6名 教職員 36名 計 452名

① 開会の言葉 生徒実行委員会委員長 瀧屋 結知 さん (大師高校)

② 主催者挨拶

川崎地区交通安全教育実行委員会委員長

栗林 利昭 大師高等学校長

高P連川崎地区交通安全対策会議代表

片岡 邦彦 大師高等学校PTA会長

来賓挨拶

一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

常務理事 荒木 高司 様

神奈川県立学校長会議川崎地区別会議

部会長 麻生高等学校長 米山 謙 様

③ 講演 講師 中原警察署交通課交通総務係

林 佑太郎 様

④ 応募作品の発表と表彰

「ポスターの部」

最優秀賞 小林 藍 さん (新城高校1年)

優秀賞 泉 明里 さん (川崎高校1年)

優秀賞 橋本 早由 さん (生田高校1年)

小池 ひな さん (生田高校1年)

「標語の部」

最優秀賞 田村 優 さん (住吉高校3年)

優秀賞 石部 幸虎 さん (麻生総合高校3年)

佐藤 陽大 さん (麻生総合高校3年)

「作文の部」

最優秀賞 久保田 優衣 さん (大師高校2年)

優秀賞 中村 鈴音 さん (生田東高校3年)

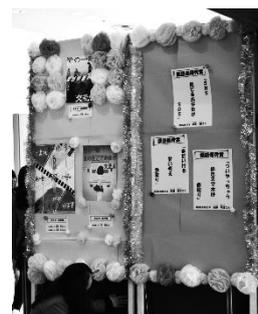
大平 空 さん (麻生高校2年)



主催者挨拶



来賓挨拶



- ⑤ 最優秀作文朗読 久保田 優衣 さん (大師高校2年)
- ⑥ 研究発表「スタートかながわ」活動報告 大師高校生徒会
- ⑦ 発表

| | | | |
|--------------|--------|---------|--------|
| 1) 合唱 | 麻生総合高校 | 2) 研究発表 | 川崎工科高校 |
| 3) 観客参加型クイズ | 川崎高校 | 4) 研究発表 | 住吉高校 |
| 5) クイズ番組型クイズ | 百合丘高校 | 6) 研究発表 | 生田高校 |
| 7) 観客参加型クイズ | 麻生高校 | 8) 寸劇 | 菅高校 |
- ⑧ 大会宣言 生徒実行委員会委員長
瀧屋 結知 さん (大師高校)
- ⑨ 講評 県教育委員会保健体育課
赤澤 夏嘉 指導主事
- ⑩ 閉会の言葉 生徒実行委員会副委員長
江川 尋斗 (麻生高校)



大会宣言



生徒スタッフ

講演

講師：中原警察署
交通課交通総務係 林 佑太郎 様

みなさんこんにちは。中原警察署交通課の林と申します。今日は、高校生の方がたくさん見えているということで、普段乗る自転車の話をしようと思います。



昨年の県内の交通事故の件数が多い順に4番目まで出しました。川崎、臨港、中原、高津、すべて川崎地区です。非常に多いです。県内のすべての人身事故に占める割合は、川崎署はおおよそ40%、中原署でも34%くらいあります。隣の横浜市では20%です。

交通事故には2種類あります。1つ目、物件事故。2つ目、人身事故。特に人身事故の場合、道義的責任というのがあります。今、例えば自転車で大きい事故を起こしたとすると、周りに野次馬が集まってきます。野次馬が手元に何を持っているのかと見ると、だいたいスマートフォンを持って、現場写真を撮っているのです。それに、みなさんの制服が写っていれば簡単に個人特定ができます。そうすると家族への誹謗中傷非難が始まり

ます。「あの子は、どこどこ高校の誰々だ。」そういったことができる時代です。事故を起こすとお金だけではなくありません。精神的な面もかなり追い詰められます。

事故を起こすと、自転車の場合、どんな法律が適用されるのでしょうか。昨年、麻生区で女子大学生が交通事故を起こしました。この罪名が適用されています。重過失致傷罪。5年以下の懲役もしくは禁錮、100万円以下の罰金です。非常に重たいです。実際に起訴されていました。

また一番重いのが民事上の責任です。これは刑事責任とは別なので、同じとは考えないでください。例えば、刑事上の責任は不起訴でも、民事的な責任はついて回ります。ここで何が問題になるか。高額賠償ですね。判例を紹介します。女子高校生が夜ライトをつけて自転車を運転していました。手には携帯電話を持っています。操作に気をとられ、前に歩く女性と衝突をしました。女性は歩行困難の重い障害が残りました。賠償金額は5000万円です。ちょっとした油断で、これだけの金額を請求されます。これを誰に請求したかという、当事者本人なのです。高校生であれば、自分がやった行為がどういう結果を招くか判断ができるはずだという重い判決です。この女子高生は、一生かかってこのお金を相手に払わなければなり

ません。重い十字架ですね。ハンドルを握る限りは運転者としての責任はずっとついて回ります。



そこで、「自転車の安全利用五則」というものがありますので紹介します。

まず、基本的に車道を走りましょう。もし歩道を走る場合も注意しなければならないことがたくさんあります。基本的に車道寄りを徐行です。すぐに止まれる速度です。あくまでも歩行者が優先なので、歩道に歩行者がいっぱいいる場合は降りて押して歩行者になってください。そうすれば安全です。

次に安全ルールを守る。自転車に多い事故の特徴が4つほどあります。ショートカットの事故。左折の巻き込み。止まっている車の陰からいきなり出てくる。そして無理な追い越しです。

無理な運転をすると、必ずそこに認知、判断、操作のいずれかにミスが出てきます。そうすると事故になります。無理な運転は控えてください。自分のためです。怪我しないためです。

ところで、歩行者用信号機に従って走る自転車を見ますが、それは間違いです。原則、一般の(3灯式)信号機に従います。また、横断歩道を自転車で渡るときですが、あくまでも横断歩道は歩行者のためにあるので、自転車が本来通る場所ではないのです。だから、人がいっぱいいるようなときは降りて押していくというのが原則になります。

そして交差点の曲がり方です。左に曲がる時、信号確認してから、小さく左に曲がる。右折は、対向の道路の左を走りたいので大きく曲がる。道路標識で右折が禁止されている交差点では二段階右折です。一回対面に出てから、また信号機に従って進んでいく。これが原則です。

今、自転車で違反をすると違反切符を切られる時代になりました。自転車運転者講習といいますが、3年以内に、2回、いわゆる赤切符を渡されると、二俣川の運転免許試験場に行き、自転車運

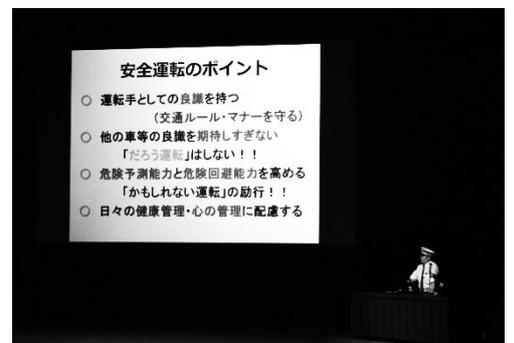
転者講習を受けることになります。これは公安委員会からの命令なので逃げることはできません。逃げてしまうと罰則もついています。

さて、安全運転のポイントですが、まず運転者としての良識を持ってください。ルール、マナーを守る。これは当たり前のことです。次に他人に期待をしない。危険の予測能力と回避能力です。これを高めることが非常に重要です。あとはその日の体調です。心身のコンディションは運転に影響してきます。安全はあくまでも心と時間のゆとりです。人間は焦っていれば必ず事故を起こします。

最後に、私が実際に体験した事故の話をしたと思います。

平成27年9月27日、17時頃、中原署管内でバスと自転車運転者の交通事故がありました。私はそのときパトカーの勤務をしており、現場に行きましたが、自転車の運転手の方はバスの後輪に頭部を轢過されて、その場で亡くなっていました。現場を見るのも非常に怖かったです。あとで署に帰ってから、ご遺体安置する場所に一人の女性が立っていました。その方は自転車で亡くなった方のご遺族だったそうです。そのときの表情は未だに忘れられないです。

交通事故は、みなさんの心に多大な傷を残します。悲しいことは時間がたてば忘れるといいますが、私は嘘だと思えます。ご遺族からしてみれば交通事故で殺されたのです。よく新聞などは事故で亡くなったと言いますが、私はそうではないと思えます。



みなさんにはハンドル握った瞬間から責任はついてきます。自転車も変わりません。いくらルールを知りませんでした、分かりませんでしたといっても逃れられないのです。今日、ルールは説明しましたが、それを守るかどうかというのは、みなさんの選択の問題なのです。ただ、今日、私が

言った知識を意識してください。知識を貯めたままだと、埃をかぶってしまいます。今日、ルールは教わりました。実際の問題はどこにあるか。道路上にあります。道路の上でみなさんが答えを導きだしてください。

みなさんの明るい未来と交通安全を祈りまして、私の講話といたします。ありがとうございました。

(一部内容を省略し、表現を改めています)

「スタートかながわ」活動報告

大師高校生徒会

大師高校生徒会より報告がありました。

まず、大師高校の通学事情について説明がありまし



た。多くの生徒が自転車通学を利用していることから、交通安全に対する啓発活動をする事への必要性を訴えていました。

次に、本年度大師高校で行われた3つの具体的な取り組みについて報告がありました。

- ①文化祭で地域の方や企業と協力し、交通ルール
の大切さを訴えた交通安全教室
- ②文化祭で地域やPTAの方々と協力し合い行っ
た交通安全啓発活動（ティッシュ配り）
- ③警察の方と協力して行った、産業道路における
交通整理

今回の活動を通じて、交通安全に対しての認識を改め、今後も保護者や地域関係者と協力し合い、



交通安全啓発活動
を続けていきたい
と報告されました。

各高校の発表

合唱・クイズ・寸劇・研究発表により、交通ルールやマナーを中心に交通安全の啓発に関する対様々なパフォーマンスが行われました。どの学校も工夫を凝らした真剣な発表が行われました。会場からも「へー、そうだったのか」とか「なるほど」という歓声上がり、温かい拍手が送られました。



麻生総合高校



川崎工科高校



川崎高校



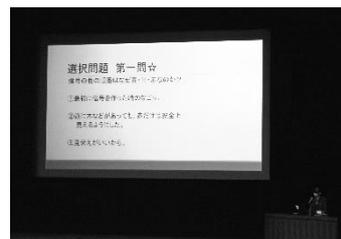
住吉高校



百合丘高校



生田高校



麻生高校



菅高校